

「1100勝800敗」～ プロ棋士・米長邦雄の姿勢 ～

(H29.4.11 入学式式辞より)

新入生の皆さんは、これまでご家庭において、あるいは学校においてそれぞれの日常を送ってきました。その、一見当たり前の日常の中で、実は皆さんは、自分自身を高める小さな戦いを繰り返して、今日まで生きています。

それは、例えば毎朝自分の力で起きて、向かい風の中自転車をこいで学校へ行くことであったり、部活動での厳しい練習に耐えることであったり、高校入試の合格目指して苦手な数学の問題を何度も解いたりする。それらはすべて、自分を高めるための小さな戦いであつたはずで

そんな皆さんに、今日は「米長邦雄（よねなが・くにお）」という人物のエピソードを紹介します。かつて将棋の四冠王、世界最強のプロ棋士と言われた人物です。彼は 40 年間のプロ生活で、史上四人目となる通算 1,100 勝を達成しました。ところが、一方で彼は、800 回負けているのです。その米長さんの言葉です。

「将棋は、その時その時に一番良い指し方をすれば、必ず勝ちます。しかし、百点満点の方法がいつも出せるか、出し続けられるか。それができるのは神様だけです。人間は違います。必ずどこかで間違えます。頭を絞りつくして一つの正しい方法を発見していくには、日々どのように成長していくかが大切なのです。」

米長さんはプロとして確固たる地位を築き、後輩の挑戦を受ける立場になります。ところがその後、大事な一戦で勝てない、負け続けてしまう時期がありました。そのとき彼は、自分より 27 歳も若い棋士に向かって、「どうして僕は勝てないのでしょうか。先生、僕に稽古をつけてください。」と頼み込み、実際そうして練習を重ねたそうです。アドバイスの一つ一つに耳を傾け、その一つ一つを実践したそうです。

プライドよりも自分の成長を優先する姿勢。素直に教を乞う気持ちと行動力。そうして挑み続けた小さな戦いの繰り返しが、彼を強くし、彼の将棋を神業（かみわざ）と呼ばれる域にまで高めることになったのです。

皆さんもこれまで、さまざまな場面で自分を高める積み重ねをしてきました。その一つの結果が今日の入学式ですし、それについてはぜひ誇りを持ってください。

ただ、これまでの積み重ねが、必ずしも自分の意志によるものでなかったり、中途半端なもので終わっていたとしたら、今日から少し自分の姿勢を変えてみましょう。

まずは、秘かな野心を持ちましょう。たとえば、憧れの〇〇大学に進学して将来の夢をかなえたいとか。たとえば、部活で今度こそ全国の舞台に立つんだ！とか。

そして、ここからが肝心です。米長さんのように「ここが分からないのです。これができないのです。教えてください。」と自ら進んで求め、実践する人になってほしい。目標に向かって小さな戦いの場面を自ら創り出し、時に勝ち、時に負けながら、自分を高める人になってほしいと思うのです。

わが南高の校訓。その二つめに掲げる「創造進取」とは、まさにそういう姿勢を言います。どうか新入生の皆さん。皆さんのすべてが、「自ら進んで取りに行く」3年間を過ごしてください。

終わりにになりましたが、保護者の皆様、お子様のご入学を心よりお祝い申し上げます。今日から私たち教職員は、皆様とともに「この子を導き、支え、よりよく育てていく」という、同じ仕事に取り組むことになりました。

私たちは、力を尽くしてお子様をサポートします。そして、ご家庭における教育の理解に努めてまいります。保護者の皆様におかれましても、どうか本校の教育活動にご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

私たちと皆様とは、ともに生徒の夢を語り合う関係でありたいと思っています。

新入生の皆さん。皆さんが小さな挑戦を重ね、勝ったり負けたりしながら強く大きくなっていく。そんな姿が見られることを期待しています。